

【めむろ未来ミーティング】

令和3年10月23日(土)

15：30～16:55

観光

- 参加者 11人（オンライン参加1名含む）
- 芽室町 町長、政策推進課長、魅力創造課長、魅力創造課参事、魅力創造課長補佐
- 司会 政策推進課長補佐
- 記録 政策調整係 角屋主事、佐藤主事

- 1 開会
- 2 手島町長あいさつ
- 3 出席職員の自己紹介
- 4 ミーティングシートの説明
- 5 意見交換

■対応等必要事項

下線部分については、対応を要する事項として別途担当部署に対応報告書の提出を依頼します。

意見交換

【ご意見①】

新嵐山スカイパークについて活用計画に基づき改革を進めているとあるが、活用計画はどこが考えたものなのか。新嵐山は町民の大切な施設であり、観光で町外の顧客を引き込むことも大事だとは思うが、最近の改革はお洒落にはなっているが、近隣の我々が仕事の途中でお昼を食べたり、子どもをスキーに連れて行ったり気軽に飲食したりしにくくなることを危惧している。活用計画を立てるのであれば町民の声を取り入れて、芽室町の業者で新しい新嵐山を作っていく、それが対外的にも芽室町を誇れるものにしていくと思う。町長の考えはどうか。

【手島町長】

活用計画は町で作らせていただいている。昨年2月に「リュラル イン ザ・スカイパーク」という形で新嵐山の活用計画を進めている。5月に町民への説明会も開催させていただいた。コロナ禍で参加者も少ないと想うが、その中で進め方やコンセプト、費用も公表して議会にも説明させていただいた。スカイパークの考え方として色々な意見をいただいている中で、修正しないというわけではないが、計画を生かしてまちづくり拠点としていきたい。また、人口減少下におけるまちづくりとして交流人口・関係人口との関わりの中で、町民にも誇りや自信が持てるようなコンセプトを考えている。新嵐山だけ盛り上がりがあればいいという考え方ではなく、市街地の商店街などにいかに波及できるかを最終的な目標とする。改革として急激なところがあり、皆様にもご心配いただく声もあった。町内の事業者の皆様ともお話をさせていただいた経過もある。基本的には今までの事業者ともいかにWin-Winでやれるかというところで、結果として今の状況では計画には至らない状況となっているとは思う。ただ、これからも私としては町内の事業者の皆様の色々な発案や要望も組み入れていきたいと思っている。

レストランについては、地域の方も使いやすいものにしていきたいと考えている。詳細は担当課より説明する。

【担当課】

レストランの考え方について、ターゲットは活用計画で謳っているとおり「町民と町外からの来訪者」である。町外から訪れる方に対しては、新嵐山全体のテーマの表現などを特徴付けとしたレストラン機能を強化していく。町民の方に対しては、宿泊施設であることから大前提として宿泊食の提供や地域の方が普段使いできる食堂という機能も提供していく。現状、レストランは1階と2階があり、機能が混在しているという意見があり、町としても機能を分けて提供していく必要があると考えている。このことから今後はレストランの改修や見直しを考えている。現段階では新しいレストランを観光客用。

1階のフードコートは地域の方たちが普段使いやバーベキューができるレストラン。2階のレストランは宿泊食限定と使い分けができるように考えている。

【ご意見②】

新嵐山は芽室町だけじゃなく、十勝西地区の憩いの場であることを忘れずにいてほしい。また、情報を公開することと町民との対話を作ってもらって、新嵐山が変わっていけるように進めてもらいたい。

【手島町長】

5月に説明会を開いたから全部説明したとは思っていない。毎年どのように進めていくのかを会合だけではなく、広報などを通じてしっかり公表するべきだと思っている。コロナを言い訳にはする訳ではないが、情報発信のやり方も反省する部分はあった。これからは今後の新嵐山の取組やレストランの在り方、地域の方たちにどのように使っていただけるかを考えてく。このような意見は重要だと思っており、お気軽に言っていただきたい。完全に前に戻すことが良いのかというのは議論が別だと思うが、町としても会社としても要望に沿えるように最大の努力をさせていただく。

【ご意見③】

先ほど参事からレストランを観光客用として増設する予定とあったが、集客はどこまで見えているのか。現状は満席など感じられない中での増設は難しいのではないか。

また、スキー場についてはナイターの営業日が減ってしまった。新嵐山で練習して上手くなったらサホロやトマムに行くということが多かったが、ナイターの営業日が減ると練習する場所がない。また、町民の子どもたちにメリットのあるスキー場の運営の仕方も考えてほしい。

【手島町長】

スキー場のナイターについては色々な声がある。今シーズンから第2リフトは毎日運行としている。スキー少年団と協議して、ナイターは3日間とする

が営業時間を使はしていこうと考えている。昨年からナイターの平日運行を3日間としたが、顧客が1人や2人しかいない日が多くあり、経営を考えると厳しい状況。改革によって大きく変えてしまった部分があるが、色々な町民の方の意見を聞きながら、今までのやり方を変えるもの残すものを考えていきたい。もう少し定着するまでご理解いただきたい。ただ、利用されている方のご意見等あれば改善していきたい。

【担当課】

レストランの増設についてシミュレーションを実施し、普段使い、宿泊食、広く観光客を受け入れるためには現状のレストランの設備で運営するより、各レストランの設備や人員などの規模を抑えて運営した方が良いという考え方から、新しいレストランを設けることとした。

今シーズンの売り上げ状況は、ここ前年度2年間と比較すると上がっており、初めて新嵐山にくるお客様が増えている状況である。

【ご意見④】

芽室町にはたくさんの観光資源があることから、わかりやすい観光マップ、パンフレット、チラシなどを作成してPRした方が良い。

西土狩高台は農村風景、市街地、日高山脈が一望できる。新嵐山の展望台への道は狭くて危険。知人は入口が分からなかったと言っている。改善が必要だと思う。

2階のレストランは宿泊者には良いが、集客が限られてしまう。一般客が広く使っていただけるような改善が必要。参考事例として中札内村の道の駅がある。野外の席があって、たくさんの集客がある。役場の職員も新嵐山で食事をしながら集客について考えていただきたい。

またコロポックル伝説があるのは芽室町だけであり、これは生かした方が良い。PRとしては写真や絵、小学生・中学生に作文してもらうなどがある。

【手島町長】

町内の観光資源を確認する作業が必要であり、マップ、リーフレット、チラシなどに結びつけていくことは重要だと思っている。これまで観光物産協会さんにご協力いただいて観光マップを作っていたいっているが、これから新嵐山を中心としながら、他の観光資源も私どもが主体的にPRしていきたい。いかにたくさんの方の目に入るかという発信方法が重要だと考えており、様々な媒体で進めていきたい。

【ご意見⑤】

新嵐山について、一過性の収益も大事だと思うが、住んでる方が使いやすい新嵐山ということを大事にしていただきたい。帯広圏の住民はスキーをするなら新嵐山が一番近くてたくさん利用している。身近にある施設ということも、芽室町の魅力になって住みやすさに繋がると思う。

夏の展望台についても眺めがよく、アクセス面でも十勝の中では1番だと思う。西士狩高速道路から見る景色も素晴らしい。

日高山脈が国立公園化されることについて、自然環境保全の観点からあまり開発されることは望まない。自然を維持しながら集客について考えていただきたい。

【手島町長】

新嵐山のスキー利用について、専門的なスキー技術の普及というよりはキッズやビギナー向けのゲレンデだと思っている。展望台の課題は水や電気のインフラ整備がなく、通路が傷んでいる。インフラ整備があれば展望台を活用して、過去にイベントで行った天空カフェなどを常設したいと思っている。展望台自体は古いが、展望台に向かう階段は今年修繕させていただいた。通路は林道となっており、農政サイドで管理しているもの。本来は観光としての通路ではなく、林を管理するための道である。ただ、せっかくの資源であるため全舗装や拡幅の費用見積もりは取ったが、想像を超える金額であった。しかし、使用いただくことに支障がないように改修・補修は必要だと思っている。

日高山脈の国立公園化について、清水町から広尾

町まで十勝で関連する市町村があり、タッグを組んで何かできないか検討中である。せっかく国立公園化となるのに観光に結びつけていく動きが弱いと思っている。僭越ながら私が声かけさせていただき、関係自治体で何かできないかと協議している。日高側の市町村長とも議論しながら進めていきたい。ただ、十勝で平成28年の水害で、命や財産に関わるところから優先して復興したことから、国有林は5年経った現在も復旧がされていない。また、復旧が遅延していることの影響として、人が入らなくなることから有害鳥獣が出現しやすくなる。マイナスの影響が大きいため、引き続き林野庁などに要望を挙げていく。

【ご意見⑥】

旧キャンプ場について、激しく損傷していると聞いているが、完全に復旧できなくても安全が確保できるのであれば少人数のキャンプ場や現状のグランピングとフリーサイトでの使い分けのためにも、旧キャンプ場の活用は検討できないか。

【手島町長】

旧キャンプ場はかなりひどい状況。相当な費用をかけて修繕することは現実的に難しいと思っている。今的新嵐山のコンセプトでは、フリーサイトからグランピングまで色々な選択ができるキャンプ場を目指している。新嵐山活用計画の中では、旧キャンプ場の場所を使って資金を投じることは検討していない。仮にオートキャンプを再開するのであれば、管理の都合上、新嵐山スカイパーク内に計画することになると思う。また、民間企業から旧キャンプ場の活用について、新嵐山のコンセプトと合致する提案があれば検討する余地はある。

【ご意見⑦】

十勝ではトカチ400というサイクリルートがあり、芽室町にルートは通っていない。十勝全体で盛り上げていく中で今後サブルートを作る計画があり、これから西十勝の近隣町村と連携していく。

私は町内で自転車の体験型プログラムを計画し、

関係人口・交流人口を増やすことに取り組んでいる。近隣自治体では歩道に色分けされた自転車専用レンタルがあるが、安全で利用しやすいため芽室町でもお願いしたい。

北海道で自転車利活用推進計画という計画を策定しているが、市町村単位でも策定できることとなっている。町として自転車を活用したツアーだけではなく、例えば通勤で自転車を使うとポイントがもらえるなどサイクルツーリズムをまちづくりに生かしていきたいということの計画を策定について検討いただきたい。

【手島町長】

おっしゃるとおりカプチ400では芽室町内にルートが入っておらず、同様にルート化されていない町の首長間でも話題になっている。有効で効果的なサブルートを考えた上で、関連団体などに積極的に要望していく。

町内の様々な観光資源があることについては、町でも全て把握している訳ではないため皆さまからご意見をいただきながら、マップ化や新嵐山と市街地までのルート化などをして町内の散走に役立てていただきたい。そのための大枠となる計画を作るのは可能 と思っている。町内事業者にとってそういうふた計画があった方が事業を進めやすいというのであれば担当と協議したい。散走については始まったばかりだが、冬のイベントも含め期待している。芽室の散走について、動向を注視している他自治体もあると聞いている。町と町内事業者でタッグを組んで行っていきたい。

【ご意見⑧】

新嵐山について、第5期芽室町総合計画前期実施計画では「町民にとっても自慢できる、誇れることのできる新嵐山スカイパーク」と記載がある。町民が誇れる新嵐山について考えてみたが、観光客が来てくれる取組も良いが、観光客ばかりの新嵐山は誇りになるとは思えない。町はもっと町民が新嵐山を利用しやすい取組や仕組みづくりを行う。そして、観光客には、「町民が楽しそうに新嵐山を利用していく」と思ってもらえることが誇りに感じると思う。観光も大事だが、町民向けにアイディアや工夫をしてもらいたい。例えば、冬シーズンでは利用済みのリフト券を提示することによって、町内の飲食店で割引になるなどがあれば、新嵐山の利用率は上がると思う。また、改革の中で、リフトで新たに4人乗りを作る予定となっているが、膨大な費用をかけてまでの必要性が感じられない。それよりも、既存のリフトに落下防止のための安全バーを付けるなどを考えていただきたい。

【手島町長】

観光客のためだけに新嵐山の改革をしているわけではないということはご理解いただきたい。ただ、観光客に魅力を感じて来ていただけることが、結果的には町民の皆さんにも魅力に感じ、誇りに繋がるイメージで考えている。また、町民の皆さんだけが新嵐山に来ることをもって、魅力があるとは言えないと思っている。町民の方の中でも今まで新嵐山に一度も来たことがなかった方が、改革後に来ていただいたという話も聞いている。改革スタート時点では町民と観光客をあまり意識しすぎるのでなく、町民が誇りを持つこと=魅力があるところでないならないと考えているため、魅力づくりをさせていただきたい。そして、町民還元については既に担当と協議をしている部分もあるため、これからお示しできると思う。ただし、お客様にあまり区分けをつけるようなやり方はしたくないと考えている。

新嵐山活用計画のリフトの架け替えについて、費用が膨大で時間もかかる。新嵐山活用計画における全体の費用は14億円としており、その内、8億円がリフトの架け替え費用としている。着手するには費用を確保できた段階でないとできない。ご意見いただいたオートキャンプ場や宿舎改修、リフトの架け替えなど莫大な費用かけて強引に行う考え方ではない。活用計画にて細かい年限を記載しているが、計画通り進めることができない場合は、期間を伸ばすことも必要かなとは思う。計画期間通りの予算を組んでいくと莫大な費用となる年度がある。全くお金をかけない訳では無いが、できるだけ安価なものか

ら手掛けていきたいと思っている。今私の意見であり、ご意見は否定または肯定するものではありません。

全体で28万人。スキーチ場利用人数を実人数で計算すると全体で4万人と把握している。

16:55 閉会

【ご意見⑨】

今後の動きは見守っていくが、町民が利用しやすい新嵐山にしていただきたいと思う。

【ご意見⑩】

新聞に記載があったが、「野遊びSDGs」とは何のことなのか。また、新嵐山について、年間何人の方が利用されているのか。

【手島町長】

「野遊びSDGs」について、まずSDGsとは全世界で持続可能な社会を続けていくための17項目の目標のことである。飢餓、貧困、教育、働き方などが定められている。

「野遊びSDGs」とは、自然を中心とした野遊びや景観などの癒し、働き方の改革などを実現していこうというもの。その結果、SDGs（持続可能な社会の目標）に結びついているというもの。新嵐山の景観や自然を評価していただいていることもあります。その一つのスポットとして取り組んでいる。

具体的には、企業の方には新嵐山の資源が素晴らしいという認識をいただいているので、交流人口や関係人口の増加の考えにおいても、仕事と観光をセットにして来ていただく。または、企業に関わらずまちづくりにノウハウを生かしていただくなど。そういう取組は新嵐山をベースに考えている。町民の使いやすさなどの側面を忘れない中で、この資源をいかに発信して、来てもらえるかということも考えていいきたい。これからは人口減少時代となるが、外部とも連携してまちづくりを目指していかなければならぬ。

【担当課】

新嵐山全体（宿舎、パークゴルフ場、キャンプ、スキーチ場）の利用者数について、昨年の統計結果において、スキーチ場利用人数を延べ人数で計算すると、